



小池 光選

飼ひ猫は生老病死身をもつて示し静かに此の世を去りぬ  
【評】家族のように可愛がっていた犬や猫が死に行くさまは本当に悲しい。少すずつ少すずつ老化、衰弱して文句も言わずに旅立ってゆく。人へのいのちの終わりを教えるように。いまま少この身運びてくれまいか狭き歩幅の足を励ます  
西宮市 宗石えり子

【評】年をとってへんとたいいていの人は歩くのが遅くなる。筋肉が弱って歩幅が狭くなるからだ。わが足よ、どうかもつ少し頑張ってくれまいか。わが足に折る言葉が切実。  
山形市 齊沢 和子

【評】そのようなものが発明されるとよいなあ。夏夏の熱を保存しておいて厳冬期には小出しに使ふ。エネルギー問題解決。  
稲城市 山口 佳紀

みづからの歌のしらべを疑はず 蝶は鳴くみんみんは鳴く  
年寄は外に出るなど言はれても茄子や胡瓜が我を待ちをり  
下野市 川中子とよ子

江戸川の流れに向かひトランプ吹く青年は礼儀正しき  
野田市 青木 作郎

抱きあげて初対面なる曾孫重し怪訝な顔でわれを見つむる  
岡山市 前原 和子

われよしも二十センチも背の高き息子を見上ぐ 炎天の道  
藤枝市 北泊あけみ

ばあちゃんどカリスアイス食べました二人で笑う日々が大切  
鳴門市 楠井 花乃

子の家を訪えばみなみな出て来たり黒猫くんともすりの寄りながら  
小平市 栗原 良子

栗木 京子選

昼寝する吾に煩擾りする父の髪のかみの七十年過ぐ  
さいたま市 斎藤 宏遠

【評】子が起きているときは照れ臭くて煩擾りできなかったのかも知れない。チクチクする髪が父の記憶を連れてきて、あたたかい気持ちになる。結句の収め方が巧み。症状も不機嫌さへも順を追う家族みんなでコロナになれば  
東京都 山川 信一

【評】新型コロナウイルスは消えたわけではない。家族が順に感染する、という状況はいづ誰にでも起こり得ることである。不機嫌も順に伝わり、どこに家族の感じが出ている。腰曲げて手足の動く一日かな田んぼの畦の薬缶の光る  
福岡市 岡田昭比古

【評】田の草取りをしているのだろうか。畦に置いた薬草が作業を見守っている。自身の体の動きを客観的に描いた上句が印象的。  
埼玉 六十万の絵も皿も売値は一万終活終へたり  
埼玉 齊藤 末子

憂へても詮なき友の死この夜はねがた祭りのどよめきに酔ふ  
青森市 安田 漢子

最上川濁れる水に漂へる船に見ゆるは芭蕉丸の文字  
北九州市 白木 典子

湖沢にコンペイトウを撒くようにシラント5000の山の日の朝  
東京都 稲山 博司

孫からの暑中御見舞届きたりまっすくな文字漢字も覚え  
常総市 坂入 幸子

夏まつりおわってピンクの提灯が三丁口の道にただよっている  
神奈川県 角田 兼勝

故郷の土で作るしぐれ飲みでいたたく酒は辛口の味  
川口市 田代 博人

俵 万智選

一年を待ち合わせたるバス停に約束通り今日の秋風  
横浜市 山田 知明

【評】新しい秋の到来を、風との約束として捉えた瑞々しい一首。バス停という設定が、何かを待つ場所として、とてもふさわしい。こんな風が待ち遠しい今日この頃。  
白井市 毘舎利道弘

【評】現実の私が、ついさっきまで夢の中で鳥だった……というのが一般的な感じかたたらう。まだ半分夢のなかにいることが伝わってくるユニークな表現だ。  
静岡市 柴田 和彦

【評】強い日差しで海水温が上がるのが、台風が始まりだ。その仕組みに猛暑日の気分を重ねた。暴れたいほどの暑さ、わかる。  
吹田市 崎島スジオ

もし仮に火星2丁目に住んだって唐揚げの味は忘れないでね  
高島市 くらたか湖春

今おなじ雨をみている水脈の行き着く場所の異なるひとと  
堺市 一條 智美

ラタトゥイユ短歌に詠んで選ばれたことが加味され今日もおいしい  
町田市 谷川 治

炎天のバス待つ列に並びあて日傘の蔭を分けてもらひぬ  
東京都 坪田 礼子

豚木と確かに詩人は人であり作家のような家を保持する  
守口市 小杉なんきん

黒瀬 珂瀾選

原爆忌すかに終えて九十歳戦禍の絶えぬこの星に生く  
東京都 青木 洋子

【評】戦中戦後を見つめ続けた、九十歳の人生の感慨。幾度も悲劇を繰り返してなお戦争を無くせない人類の愚かさ、悲しさ。この声に世界は深く思いを致さねばなりません。狼が二つ、夫と私が三つ食べ庭のすいかの夏は終りぬ  
大津市 井上 智子

【評】家庭菜園のスイカでしよう。全部で五つ生ったうちの二つは狼のおやつ、人間の夫婦は三つを楽しむ。獣書を詠んだ一首ですが、どこかユーモラスな余裕も感じます。  
福知山市 阪梨 義春

【評】同じくスイカ栽培の歌ですが、こちらは残念にも結実せず。酷暑が恨めしいですが、その温暖化の原因が人間だと思つと複雑。  
熊本市 坂梨 三枝

盆棚を支えに祖母が秋風のごとく唱える母の戒名  
横濱市 佐藤 水魚

いつしかに蟬の鳴きやみしつもれる独房に立つ写経の墨の香  
松本市 武井 緋彩

学習の跡を丁寧に拭かれたる黒板残り校名の消ゆ  
山口市 岡田 貞義

凸凹の道を語らず人生は淡いものだとつづ母しづか  
仙台市 植沢 悦子

国境のレストランにてクリスピートウフ頼めば揚げ出しが来る  
オランダ 宮沢 洋子